

# 一言

## サステナビリティ経営2・0へ

サステナビリティに関する課題が深刻になった今日では、「社会にいいことを

スクの両面を組み込んだ、経営のイノベーションである。

やる」受け身な発想でなく「事業を永続

それにはまず、将来のめざす領域を設定することだ。自社にかかわる社会変革

するうえで、経営に影響するサステナビ

を認識し、「めざす姿」をデザインした

リティ要素を取り込む」積極性が必要に

チャレンジ領域を示すことである。例えば

なってくる。これまで社会要素といえ

ば気候変動の課題に対して、企業はエネ

CSRの発想が中心だった。これだけで

ルギー利用についての羅針盤を塗り替

なく、財務面や事業面に重点を置いた「サ

よう迫られている。

ステナビリティ経営2・0」に刷新する

その上で経営に影響を及ぼすサステナ

ことである。これは経営活動あらゆる場

面には、サステナビリティ要素を特定し、その課題が事業

面に、サステナビリティ要素の機会とリ

にもたらす機会（価値創造）とリスク（責

任ある活動）の両側面で分析する。機会

の側面は、今後のビジネスモデルや戦略

の源泉となるものだ。一方、企業に求め

られる責任への圧力にも、社会的要素が

増している。

これを実践していくために、KPI（主

要業績指標）を設定して運用していく。

KPIは、社内での実践・管理のために

成果を計り達成度合いを評価するととも

に、社外に対して進捗度を説明する役割

も果たしている。ESG投資が広がる中

では、KPIに基づく非財務情報の開示

が投資家との接点になるからだ。

創コンサルティング  
代表取締役

海野 みづえ